

グラウンドデザイン

教育目標である3つの「しんこう」に迫るために

親しく交わろう〔親交〕

<学級・授業経営と生徒理解>

- ◎ ゆるやかな協働性（学級・授業経営） 
- ・ 分からないことがあれば「分からないから教えて」「ここどうやるの？」と安心感をもって聞くことができる。
- ・ 困っている子がいたら、「どうしたの?」「こうするといいよ」と寄り添う。
- 教員の研修（生徒理解）
- ・ 現職教育での生徒理解、Q Uの活用、通常の学級における配慮を要する生徒の対応
- ・ なごや子ども応援委員会など関係機関との連携 → ケース会議等の設定

深く考えよう〔深考〕

<学校教育努力点の推進> 「互いに認め合い 学びを深めよう」

- ◎ 「総合的な学習の時間」の授業づくり（カリキュラムの整理）
- ・ 「課題の設定」に焦点を当てたカリキュラムの整理
- ・ 「ナゴヤ学びのコンパス」の理解と推進
- 考えの共有や振り返りの場面でのICTの活用
- ・ ICT活用のカリキュラムへの明示と推進

進んで行おう〔進行〕

<自らが考えて行動> 「自律性を身に付ける」

- ◎ 朝の短学活の時間に、生徒自らがどういった学習に取り組み、学力を向上させていくのかを考えて活動する。 
- 学年・学級づくりとして、自治活動（生徒が問題点を捉え、正していく活動）を行う。
- 生徒が、学校の決まりについて考え、見直しを行う。
- 「さんさんルーム」での過ごし方を、生徒が計画し実行する。

家庭・地域との連携

<開かれた学校づくり>

- 学校だより、学年通信、学校ホームページなどによる積極的な情報発信をする。
- 「学校評価」の結果や「なごやコミュニティ・スクール会議（NCS会議）」での意見を取り入れて、本校の課題解決に役立てる。